令和 7 年度後期 FD 授業アンケート結果への所見(R7 年度 FD 委員会)

本学令和 7 年度後期開講科目を専門教育講義科目群、専門教育実験実習科目群の２科目群に分類し、FD 授業アンケートへの回答データを各群ごとに集計・分析して評価をした。

後期の 2 群の開講科目数は、それぞれ 12 科目、16 科目であった。2 群の平均回答率(履修者数に対する回答者数の割合)は、99～100％と高い回答率であった。以下にその所見を記す。

１）質問項目と評価方法

令和 7 年度後期 FD 授業アンケートの質問項目はこれまでと同様、大きく分けて前半の「学生の授業へ向かう態度、意識」を調査する内容(A あなた自身の自己点検)と後半の「学生による教員の授業に対する評価」を実施する内容(B この授業に関する評価)からなっている。専門教育実験実習科目は講義科目と質的に異なる部分があるため、質問項目 A7、B6、B10、B11、B13（後述）をこの科目群から除外し、別途、実験実習科目のみの質問項目 7 項目を設定した。その評価方法は、これまでと同様「0～5 点」の 6 段階で実施した。

質問項目

A. あなた自身の自己点検（あなたはこの授業をどのような態度で受けていますか。）

1. あなたはこの授業を、欠席や遅刻、早退などをせずに受けましたか。
2. あなたはこの授業中に私語や居眠りを慎しみ、まじめに取り組みましたか。
3. あなたは前もってこの授業の講義要綱(シラバス)を読みましたか。
4. あなたはこの授業で、板書事項や授業の要点をノートにとりましたか。
5. あなたは授業時間以外にこの科目の学習を 1 週間にどのくらいしましたか。
6. あなたはこの授業で、分からないこと疑問に思ったことについて質問をしたり、自分で調べたりしましたか。
7. あなたはこの授業を意欲と関心をもって学ぼうとしましたか。

B. この授業に関する評価(この授業に対するあなた自身の評価を示して下さい。)

1. この授業は、開始時刻・終了時刻が守られていましたか。
2. この授業は、シラバスにある授業の主題や目的に十分に沿っていましたか。
3. この授業は、わかりやすかったですか。
4. 教員の話し方・声の大きさなどは、明瞭で聞き取りやすいものでしたか。
5. 教科書(テキスト)やプリント、スライド、板書などは、わかりやすかったですか。
6. 授業の進め方・速さなどは、あなたにとって適切でしたか。
7. 教員は考えさせ、学生が発言や質問したり、意見を述べられるように配慮していましたか。
8. 教員は、学生の質問に的確に答えてくれましたか。
9. 教員は、一人ひとりの学生に対して公平に接していましたか。
10. 私語に対する注意など、授業を受ける雰囲気が教室に保たれていましたか。
11. 教員は学生が授業時間以外に学習するように工夫していましたか(課題、復習問題など)。

12. 教員は十分に準備し、熱意を持って授業に臨んでいると感じられましたか。
13. この授業を受けて、その分野に関する学問的興味や関心が高まりましたか。
（実験実習科目では下記の B13 と入れ替え）
14. この授業に対する、あなたの満足度はどれくらいですか。（実験実習科目では B15 とする）

実験実習科目のみの質問項目

A7. あなたはこの実験・実習で、意欲と関心をもって学ぶための作業をしましたか。
A8. あなたは、グループの他の人と協調性を持って実験・実習に臨みましたか。
B7. 教員の説明や指示は適切でしたか。
B10. 教員は、グループワークをしやすい雰囲気を作っていましたか。
B11. 安全についての教員の指導と配慮は十分であり、また適切でしたか。
B13. 実験・実習を通して、講義で得た知識を深めることができましたか。
B14. この授業によって、技術や実技などが身につきましたか。

２）調査方法

令和７年度後期開講科目を専門教育講義科目群、専門教育実験実習科目群の 2 科目群に分類し、後期 FD 授業アンケートをこの 2 科目群ごとに集計・分析して評価をおこなった。なお、2 科目群の開講科目は、それぞれ 12 科目、16 科目で、各科目群とその回答率（単純平均）を以下に示した。

2 科目群の分類と回答率

1. 専門教育講義科目（12 科目、回答率：99%）
運動生理学
応用栄養学Ⅰ
食品学各論
栄養指導論Ⅰ
公衆衛生学
社会福祉概論
臨床栄養学Ⅰ
校外実習概論
病態生理学
スポーツ栄養学
生化学
応用栄養学Ⅱ

2. 専門教育実験実習科目（16 科目、回答率：100%）
調理学実習Ⅱ
調理学実習Ⅱ（組違い）
臨床栄養学演習

臨床栄養学演習（組違い）
生理学実験
生理学実験（組違い）
給食運営実習Ⅰ
給食運営実習Ⅰ（組違い）
栄養学実験
栄養学実験（組違い）
食品衛生学実験
食品衛生学実験（組違い）
食品学実験Ⅱ
食品学実験Ⅱ（組違い）
臨床栄養学演習
製菓実習（通年科目）

いずれの科目群においても高い回答率（99%以上）であった。まず各質問項目ごとに平均値を求めて 2 群を評価した。評価方法は、「非常にそう思う:5 点」と「そう思う:4 点」の高いスコアを回答した学生の割合を合計したパーセンテージが 80%以上のものを授業の目的が達成されていると評価した。一方、80%未満のものを改善が必要であると評価した。

３）調査結果

（１）全体的評価

Ａの「あなた自身の自己点検」7 項目／8 項目（専門教育実験実習科目群)、Ｂの「この授業に関する評価」14 項目／15 項目（専門教育実験実習科目群）での「5 点と 4 点」の割合が 80%以上であった項目数を以下の表に示した。

「5 点と 4 点」の合計が 80%以上の項目数と割合*

	専門教育講義科目群	専門教育実験実習科目群
Ａ「あなた自身の自己点検」	１／７ (14%)	７／８ (88%)
Ｂ「この授業に関する評価」	１３／１４ (93%)	１４／１５ (93%)

*；分子が該当項目数、分母が調査項目数。括弧内の数値はその割合（%）

B の項目（授業に対する評価）では、両群とも概ね良好な結果となり講義の質自体に対する満足度は前期と比べて向上していると思われたが、講義科目において A の項目で基準に到達しない科目が多数みられ、大きな課題であると思われた。前期に引き続き、学生の学習に対するモチベーションの維持、能動的学習態度の醸成に課題を残したと言える。

（２）「5 点と 4 点」の合計が 80％未満の項目

「5 点と 4 点」の合計が 80％未満であった項目を以下の表に示した。

科目群	「5 点と 4 点」の合計が 80％未満の項目とそのパーセンテージ*	
	Ａあなた自身の自己点検	Ｂこの授業に関する評価
専門教育講義科目群	A1(75%),A3(73%),A4(78%),A5 (25%), A6(10%), A7(78%)	B3(74%)
専門教育実験実習科目群	A5(44%)	B3(79%)

*；該当項目の質問事項。括弧はそのパーセンテージ。

A1；あなたはこの授業を、欠席や遅刻、早退などをせずに受けましたか。

A3；あなたは前もってこの授業の講義要綱(シラバス)を読みましたか。

A4； あなたはこの授業で、板書事項や授業の要点をノートにとりましたか。

A5；あなたは授業時間以外にこの科目の学習（課題作成等を含む）を１週間にどのくらいしましたか(課題作成等を含む)。

A6；あなたはこの授業で、分からないこと疑問に思ったことについて質問をしたり、自分で調べたりしましたか。

A7；あなたはこの授業を意欲と関心をもって学ぼうとしましたか。

B3；この授業は、わかりやすかったですか。

（２−１）「Ａあなた自身の自己点検」の項

A5 については両科目群でともに、基準に到達しなかった。実験実習科目に関しては、基準を達成できなかったのは A5(44%)のみであったが、講義科目では A2 を除いて 8 割に到達せず、特に A5 が 25%、A6 が 10%と極端に低い値を示した。両者は能動的学習態度に関するものであり、ここまで低値を示すのは、特定の科目の問題というより学生全体の勉学に取り組む姿勢、考え方を良い方向に改善していくことが必要であるということを明確に示していると思われる。

（２−２）「Ｂこの授業に関する評価」の項

B3 が講義科目､実験実習科目共通で 80%に到達しなかったものの 70%以上は確保していること、それ以外の項目はすべて 80%を満たしていたことから、講義自体の評価自体は前期と比べて総じて向上しているといえる。ただし、個々の科目に着目してみると、特定の科目においては十分な評価を得られていない項目も散見されるため、今後も学生の意見を更に聞く、教員間での情報交換を密にするといったことを通じて、講義、実験実習の質を上げ、さらに学生の満足度・理解度を上げていく必要があると考えられた。

以上